



伊藤まさひろ県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

水田フル活用へ向け行動計画策定

転作
推進

飼料用米で10万円の収入確保



本会議場に登壇し、森田知事らに質問する伊藤昌弘県議

佐倉市選出の伊藤昌弘(いとう・まさひろ)県議は、六月県議会で一期目ながら早くも二度目の一般質問に登壇し、農業問題や印旛沼流域の環境問題を取り上げ、森田新知事ら県執行部の方針をたどりました。伊藤県議の質問に対し、県内では湿田が多く転作が困難な状況から、県は国へ要望し、農家を取り組みやすい飼料用米を生産した場合、十アール当たり十萬円の収入が確保されるよう、減反から水田フル活用へ政策転換したことを明らかにしました。印旛沼流域の環境問題と合わせ、1、2面で特集します。

伊藤議員 国は、本年度を「水田フル活用元年」と位置づけ、食料自給率向上へ向け政策転換しているが、平成二十一年度産米の生産調整について、県はどのように取り組むのか。

農林水産部長 国の減反から水田フル活用への政策転換を踏まえ、畜産が盛んな本県では、年度当初に飼料用米やホイルクroppサイレージ稲を重点作物として強力に推進するための具体的な方策として、水田フル活用に向けた当面の行動計画を策定したところです。

特に、農家を取り組みやすい飼料用米の推進に当たっては、国へ追加支援を要望していたところ、平成二十一年度補正予算で、十アール当たり十萬円の収入が確保されることになりました。

そこで、何よりもこの情報を県内水田農家十萬戸すべてに早急に伝え、その上で農家自らが判断して取り組んでもらえるよう、大規模農家や土地改良区への直接訪問による制度説明や協力要請など、県

および関係団体が丸とつて、水田フル活用を積極的に推進してまいります。

要望
飼料用米に係わる十萬円の追加支援である十萬

農商工連携で植物工場を!

伊藤議員 農商工連携のシンボルである植物工場に関する国の施策はどのようなものか。また、県としてどのように取り組むのか。

農林水産部長 国は、農水省と経産省が連携し、植物工場を推進することとしており、平成二十一年度補正予算では、農業者団体、民間企業、大学等による植物工場の導入に向けた支援策が盛り込まれています。

具体的には①農業者向けの補助や企業向けのリース補助による、植物工場の導入促進②基礎研究を行う研究センターや大学・研究機関等における実証・展示施設の整備などに対して支援するとしています。

県としては、天候に左右されず安定供給が可能で、雇用拡大にもつながることから、国や関係機関と連携しながら、内容の周知を図り、県内での取り組みを推進してまいります。

佐倉市特集

6月県議会一般質問

伊藤議員 植物工場

伊藤まさひろ・PROFILE

略歴

- 昭和30年12月25日 佐倉市に生まれる
- 昭和53年3月 日本大学法学部卒業
- 平成7年4月 佐倉市議会議員に当選(2期を務める)
- 平成19年4月 千葉県議会議員に当選

現職

- 千葉県議会 総務常任委員会委員
- 自民党千葉県連組織委員会委員
- “ 広報委員会委員
- 自由民主党佐倉支部 幹事長
- 佐倉市表町防犯防災協会 会長
- 日大習志野高校同窓会 会長

まちづくりに関する
悩みごと、気軽に
ご相談下さい!!!

伊藤まさひろ 県議事務所

〒285-0811 佐倉市表町3-6-28
TEL.043-485-8019
FAX.043-486-1616

印旛沼は流域の環境を映す鏡

合併処理浄化槽の設置7800基

透水性歩道の整備を要望

伊藤議員 印旛沼は、流域の環境と我々の生活を映す鏡です。一日も早い水質浄化を目指さなければなりません。ファーストフラッシュ汚濁とは、道路、歩道などに溜まった汚れが、初期降雨時に雨水と一緒に側溝に流れ、河川から沼に入り、水を汚してしまう現象をいいます。

この対策に効果があると言われているのが、透水性歩道です。印旛沼流域における県の取り組み状況は、どうか。

県土整備部長 県では、平成十五年度から、印旛沼流域において、国道296号や県道千葉八街横芝線などで、透水性舗装による歩道の整備を行ってきました。今後も、引き続き印旛村瀬戸地先の国道464号や、佐倉市石川地先の県道佐倉印西線などで透水性舗装による歩道の整備を実施してまいります。

要望 ファーストフラッシュ汚濁対策の透水性歩道の整備は、水質浄化にも有効ですが、治水対策の上でも非常に有効であり、



自席から再質問する伊藤県議

画面からの効果があるので、引き続き整備をお願いしたい。

伊藤議員 合併処理浄化槽と高度処理型合併浄化槽の印旛沼流域における整備状況と普及対策はどうか。環境生活部長 県では、湖沼水質保全計画に基づいて、単独処理浄化槽及び汲

み取り便所から、合併処理浄化槽への転換や、アオコ等の発生原因となる窒素・りんを処理できる高度処理型合併浄化槽の設置促進を図っているところです。

この結果、印旛沼流域では、市町村及び県・国の助成により、平成二十年度末までに合併処理浄化槽が約七千八百基、高度処理型浄化槽が約千四百基設置されるなど、年々増加してきています。

雨水貯留施設、県立4高校に設置

伊藤議員 印旛沼流域の治水対策に関連し、二点伺います。印旛沼流域における雨水貯留浸透施設の具体的な取り組み状況と今後の予定はどうか。

県土整備部長 雨水貯留浸透施設の設置は、「印旛沼流域水循環健全化会議」で定めた「緊急行動計画」に、流出抑制対策の重点施策として位置づけられています。

県では、印旛沼流域における県立高校十八校のうち、平成二十年度に佐倉高校の施設が完成し、これまでに四校の校庭に雨水貯留浸透施設を設置したところです。

今年度は、四街道高校の工事を予定しており、引き続き計画的に取り組み、河川への流出抑制が図られるよう努めてまいります。

要望 印旛沼流域における雨水貯留浸透施設については、今後も計画的に設置していただきたい。

伊藤議員 高崎川の河川改修の進捗状況と今後の予定は、どうか。

県土整備部長 高崎川の改修は、平成九年度に着手し、鹿島川合流点からJR成田線までの約二・六キロ区間は、概ね十年に一度発生する洪水が安全に流下できるように整備を進めているところですが、特に、鹿島川から錦木橋までの約二キロ区間は、重点区間として優先的に整備しており、現在、城南橋上流までの一・七キロ区間が完成して、今後は、狭い箇所となつていくと、護岸の整備を進めるとともに、護岸の整備を行う、平成二十三年度を目途に重点区間の改修を図っていきます。残る上流区間も、早期に事業効果が発揮されるよう改修を進めてまいります。

路線バス購入などに助成金

地球温暖化対策

伊藤議員 今回提案された六月補正予算案の中に、低炭素循環型社会に向けた取り組みとして「公共交通機関グリーン化促進事業」があるが、これはどのようなものか。

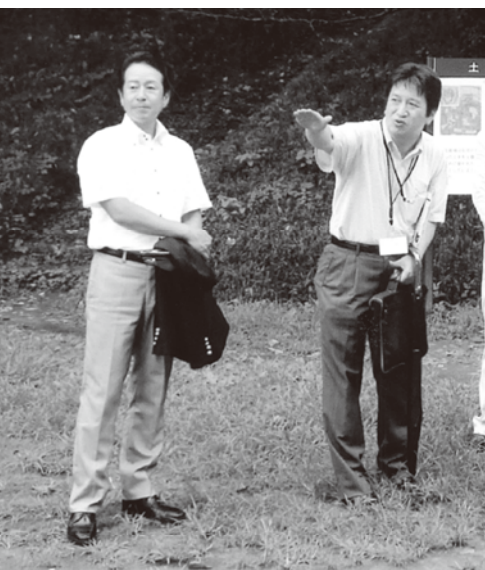
森田知事 路線バスは、県民の通勤や通学の足として、広く利用されているが、初年度登録から十二年を経過した車両は、法に定める窒素酸化物などの排出基準に適合した車両への買い替えが必要となっています。

そこで、この事業は、特に公共性の高い路線バス事業者が、車両の買い替えを行うに当たり、法の基準に適合しているだけでなく、より低公害で低燃費な車両

要望 地球温暖化問題は、千葉県が先進的な温暖化対策事例を全国に発信すれば、千葉県発信の大きな波を起こせるのではないかと、ぜひ一生懸命取り組んでほしい。

ふるさと佐倉のために
伊藤まさひろ
県議

○佐倉市特集 ○6月県議会一般質問



地域の課題解決へ 現地調査する伊藤県議(左)